

18 歳から考える日本の政治〔第 2 版〕

18 歳から考える日本の政治〔第 2 版〕

——自著を語る＋目次「五十嵐仁の転成仁語」より

8 月 23 日（土） 『18 歳から考える日本の政治』第 2 版が法律文化社から刊行された〔日常〕

長い間のご無沙汰でした。私の夏休みは 20 日に終わっていたのに、ブログを再開できませんでした。

1 週間の帰省の間に新聞がたまって山になっており、それを読んで整理する必要があったからです。そのうえ、故郷・新潟の日本文理高校が予想外の快進撃で、夜になれば阪神タイガースの 4 連勝と、野球から目が離せませんでした。

このような事情で、ブログまで手が回らなかったというわけです。その結果、10 日近くも間が開いてしまいました。

さて、そろそろ充電期間を終わりにしなければ、などと思っていたところに、法律文化社から連絡がありました。拙著『18 歳から考える日本の政治』の第 2 版が刊行されたという知らせです。

この本の初版は 2010 年に刊行されました。お陰様で 4 刷りにまでなり、これは現在も刊行中です。

しかし、その後、東日本大震災と原発の重大事故、民主党政権の崩壊と第 2 次安倍内閣の登場という大きな出来事が相次ぎました。当然ながら、これらについては記述されていません。

というわけで、これらを含めて、その後の政治動向を補充した第 2 版を刊行することになりました。それが間もなく店頭に並びます。

ぜひ、手に取って見ていただきたいと思います。ご購入いただくか法律文化社に注文していただき、「日本の政治」について「考える」材料として役立てていただきたいものです。

「18 歳から」ということですから、高校卒業程度の学力と理解力をお持ちの方なら、どなたにでも分かりやすく書いたつもりです。36 歳以上なら 2 倍、54 歳以上なら 3 倍も良く分かる（？）にちがいません。

以下に「第 2 版はしがき」をアップしておきますので、参考にしていただければ幸いです。

18歳から考える日本の政治〔第2版〕

主権者としての「知力」を養い、政治を見る目を鍛え、日本の政治を前進させていくために役立つことを願い、私は本書を執筆しました。それから4年が経過しています。この間、日本はかつてない大きな出来事に遭遇し、社会や政治も大きく変わってきています。その変化に応じて加筆し、必要最小限の事項を補充したのが、この第2版です

本書刊行以降、日本が直面した何よりも大きな出来事は、2011年3月11日に勃発した巨大地震と大津波による東日本大震災、それに伴って発生した福島第1原子力発電所の過酷事故（シビア・アクシデント）です。これによって、日本の社会と政治が抱えていた問題点があぶりだされました。

巨大地震の発生は自然現象であり、地震国日本にとっては避けられない災害です。しかし、それに対する備えがしっかりしていて救助・救援体制が万全なら、被害を最小にすることができたはずですが。残念ながら、地震対策と津波対策も、その後の救助・救援体制も極めて不十分でした。原子力発電所の事故による避難についても、多くの問題がありました。

これらの政治・行政上の施策や対応が不備であったため、失われずに済んだはずの多くの人命が犠牲になりました。こうして、政治が対応すべき大きな課題が浮き彫りになったのです。

とりわけ、震災後の救援活動を阻み、放射能被害を避けるために周辺住民の避難や移住を余儀なくさせた福島第1原子力発電所の事故は、「安全神話」の破たんを明確にするものでした。原子力発電は国策として推進されてきたのであり、それに伴う巨大災害の発生はまさに人災というべきものです。この点でも、政治のあり方が鋭く問われました。

他方、政治の面では、民主党を中心とした連立政権から自民党を中心とした連立政権への政権交代という大きな出来事がありました。2012年の自民党の政権復帰は、ほとんど民主党による「オウンゴール」とも言える失敗によるものです。

しかも、自民・公明連立政権の首班として登場したのは、安倍晋三元首相でした。再登板した安倍首相は、当初は「アベノミクス」を掲げてデフレ不況からの脱却と経済の再生を目指しましたが、参院選で「ねじれ状態」が解消されて以降、第1次安倍内閣の目標であった「戦後レジームからの脱却」へと重点を移行させ、「積極的平和主義」に基づく「戦争できる国」づくりをめざすこととなります。

そのために、安倍首相は憲法9条の解釈を変え、集団的自衛権の行使容認を閣議決定しました。その結果、戦後の日本のあり方や国の形が大きく変わり、憲法の根幹である平和主義が有名無実となってしまう恐れが強まっています。

日本は大きな転換点に差しかかりました。そのような転換が必要なのか、転換してどのような方向に進んでいくのかが、国民一人一人に問われているのではないのでしょうか。日本と日本人の将来をかけたこのような問いに正しく答えることが、これまで以上に求められているように思われます。

主権者としての「知力」を養い、政治を見る目を鍛えることがますます必要になっていま

18 歳から考える日本の政治〔第 2 版〕

す。政治と政治家を見極め、誤りのない道を選択し、日本の政治を前に進めるために、これからもこの本が皆さんの役に立つことを願っています。

8 月 25 日（月） 『18 歳から考える日本の政治』の目次〔日常〕

新潟の日本文理高校は残念な結果に終わりました。とはいえ、準決勝まで上りつめた健闘を讃えたいと思います。

それはさておき、拙著『18 歳から考える日本の政治』の第 2 版が法律文化社から送られてきました。初版よりもページ数が増え、値段も 100 円高くなって 2300 円になりました。

「18 歳から」の方には負担になる金額かもしれませんが、それだけの価値はあると思います。「日本の政治」について考えるうえで、これ一冊で間に合うように幅広い内容を扱っていますから。

これ一冊があれば、政治について書かれた本を何冊も買う必要がなくなるはずです。このことについて、私は初版の「はしがき」で次のように書きました。

この本は、「日本の政治」についての入門書です。この一冊で、政治とは何か、日本の政治はどのように変化してきたのか、政治の仕組みはどうなっているのかなどについて、基本的な知識が得られるようにしてあります。難しく言えば、政治思想と政治理論、近現代日本政治史、政治制度・機構論、行政学と地方自治、国際政治について一冊にまとめたものが、この本だということになります。

それがどのような構成となっていて、どのように記述されているかを知るには、本書を手にとってみていただくほかありません。しかし、目次を見れば、そのことはある程度、理解していただくことができるでしょう。

ということで、以下に本書の目次を紹介させていただきます。下線が引かれている部分は、第 2 版で追加された節です。

第 I 部 私たちと政治

1 政治って、見るもの？ するもの？ 闘うもの？

見る政治／する政治／闘う政治／政治とは、見るもの、するもの、闘うもの

2 政治って、役に立つの？ 政治のしくみがわかると楽しくなる？

ものごとを決めるのが政治／政治を動かすのは人間一人間観と価値観／政治には仕組みがある一法則と制度／役に立つか、楽しいか、得になるか、正しいか

18歳から考える日本の政治〔第2版〕

- 3 政治を動かす力は何？—正統性と権力の問題
なぜ従うの？／正統性の3類型／第4の類型＝民主主義的正統性／権力についての2つのとらえ方
- 4 誰が政治を動かしているの？—政治家と国民主権
政治を動かす人々／本当に政治を動かしているのは国民／なぜ、直接、動かさないのか／国民主権であればこそ／正当な選挙とは
- 5 よい政治とはどのような政治？—自由・民主主義と政治の理想
自由と民主主義／ルールを作るためのルール／「よい政治」とは／「市民」と「市民政治」／政治教育の重要性
- 6 どうすれば政治は変わるの？—政治の変化と世論
変わる政治、変わらない政治／世論と政治情報／実像（環境）と虚像（擬似環境）／世論が変われば政治は変わる

第Ⅱ部 戦後政治から見える光と影

- 7 日本政治の底の底
政治意識、政治思想、政治文化／経路依存性と重層性／日本の政治文化の特徴／日本の政治文化の問題点
- 8 戦前の政治と戦争—歪んだ日本の近代化
戦後政治の前提としての戦前政治—政治における経路依存性／戦前における光と影—近代化と軍国化／「ハンドル」と「ブレーキ」がなければ事故を起こすのは当然／負の遺産を克服するために
- 9 占領と民主化—戦後改革の意味するもの
敗北と解放／戦争末期の悲劇／間接占領の開始とその意味／戦後日本の骨格を形成した改革／反共の防波堤となるための逆コース
- 10 敗戦後の再出発—「青写真」としての日本国憲法
「国のかたち」を決めるもの／戦後の天皇制／非武装憲法の下での武装／保安隊から自衛隊へ／独立したはずなのに
- 11 戦後政治モデルの形成—「55年体制」と60年安保
日本の「独立」—対日講和条約と旧安保条約の締結／1955年にできあがった戦後政治構造／安保闘争／三池争議／ベトナム反戦運動と沖縄返還運動
- 12 高度成長の時代—50年代後半～70年代前半
高度経済成長の始まり／先進国の仲間入り／高度成長の光と影／政治・社会運動の高揚と革新自治体の拡大
- 13 戦後保守政治の再編—70年代中葉～80年代
高度成長の終焉—第1次石油ショックの発生／政治・社会意識の転換／「臨調・行革」路線と戦後政治の総決算／竹下派支配と政治改革の浮上／バブル経済の発生と崩壊

18歳から考える日本の政治〔第2版〕

- 14 混迷の時代から新しい政治へ—90年代～現在
ソ連・東欧の崩壊と冷戦の終焉／「一国平和主義」批判とPKO／細川連立政権の樹立と「55年体制」の崩壊／政治と経済の「失われた10年」／「小泉ブーム」と構造改革／安倍・福田・麻生と続いた短命政権／政権交代と鳩山・菅・野田民主党政権／第2次安倍内閣の樹立
- 15 政党の系譜
戦前の政党制／戦後における政党の出発／「55年体制」の成立と変容／混乱と再編／2010年の政党状況／民主党の分裂と「国民の生活が第一」の結成／日本維新の会の結成と失速／「第三極」新党と未来の党の挫折／みんなの党の分裂と結いの党の結成

第Ⅲ部 政治の仕組み

- 16 民主主義って、必要なの？—政治のルールと仕組み
民主主義とは？／政治にとって民主主義はどのような意味を持っているのか？／民主主義に関するいくつかの問題／民主主義と多数決／民主主義の条件と課題
- 17 選挙に行って、政治が変わるの？—選挙と政治行動・政治参加
選挙とは？／選挙の原則／選挙区制、定数、投票方法／日本の選挙制度／衆議院選挙と参議院選挙の仕組み
- 18 国家がなかったら、政治はどうなるの？—国家と政府
国家とは？—狭い意味と広い意味／政府とは？—機能と機構／三権の分立と均衡／議院内閣制と大統領制／行政国家化の進行／自民党の国家政党化と官僚との癒着／政治主導の回復に向けて
- 19 政策って、どのようにして法律になるの？—法律と予算
政策とは？／政策はどのようにして法案になるのか？／法案はどのようにして法律になるのか？／内閣提出法案以外の場合／予算はどのようにして作られるの？
- 20 国会って、何をしているの？—代議制、議会の役割
議会と国会／議会の役割／近代議会政治の原理／現代議会と議会政治の変容／日本の議会—衆議院と参議院／国会の種類にはどのようなものがあるか？
- 21 官僚って、何をしているの？—官僚制、官僚機構の役割
官僚と官僚制／日本の内閣制度／内閣の主な役割と権限／省庁の編成
- 22 政党って、信用できるの？—政党政治と政党の役割
政党とは？／政党の性格／政党の歴史／政党の機能と役割／野党の役割と存在意義／政党制
- 23 市民や団体の役割は何？—圧力団体の活動と役割
市民と市民団体／圧力団体政治とは？／圧力団体の性格と特徴／圧力団体の類型と

18歳から考える日本の政治〔第2版〕

- 活動／日本の圧力団体／圧力団体の功罪
- 24 地方から政治は変えられる？—地方自治体、地方政治
地方自治とは？／団体自治と住民自治／地方自治の意義／地方自治を困難にする要因と対策／日本の地方自治／本当の自治の確立に向けて
- 25 世界の中で日本はどのような役割を果たすの？—外交と安全保障
国際政治、外交と戦争／対米関係の改善／アジアの周辺諸国との関係強化／「平和・民主国家」の理念と真の安全保障／外国人に好かれ憧れるような国でありたい／どのような「国のかたち」を目指すのか？
- 終 政治を担い、変えるのは私たち自身
政権交代の実現と政治の変化／民主党政権の前進面／鳩山内閣の限界と迷走／菅内閣の登場と参議院選挙での惨敗／ふたたび生じた「ねじれ国会」／2012年総選挙での政権交代／第2次安倍内閣による新たな「富国強兵」政策の提起／「平和国家」から「戦争国家」への転換／転換する必要があるのか／亀裂の拡大と孤立化の深まり／試される日本の民主主義／日本政治の変革に向けて

8月26日（火） 『18歳から考える日本の政治』の特徴と工夫した点 [日常]

拙著『18歳から考える日本の政治』第2版が刊行された機会に、もう少し、本書のPRをさせていただこうと思います。というのは、本書は大学の教養課程での政治学のテキストとして用いられることを想定して執筆しましたが、同時に、高校を卒業して社会に出て働く一般の方にも、政治についての知識と理解を深めていただくことを期待して書いたからです。

本書は学生向けに書かれたものではありませんが、同時に、市民向けの政治学の入門書としても書かれています。本書を読んで、ぜひ民主政治を担うに足る市民としての政治力を養い、蓄積していただきたいものです。

このような意図ないしは期待を込めて、本書を書き刊行しました。その意図はある程度達成されたようです。

大学の1～2年生向けの授業でのテキストとしての注文を、かなりいただいたようです。この機会に、本書を利用されたすべての方にお礼申し上げたいと思います。

しかし、残念ながら一般市民の皆さんには、それほど読まれているようには見えません。街中の書店に並ぶことは少なく、主として法律文化社への直接注文での販売となっているからだと思われます。

これでは、本書執筆にあたっての私の期待は実現できません。もっと多くの人に読んでいただき、この本を活用してもらいたいとの思いを込めて、本書の特徴と工夫した点について

18 歳から考える日本の政治〔第 2 版〕

紹介させていただきます。

第 1 に、全体の構成と記述の方法です。全体はⅢ部に分かれ、その下に 25 の章と終章があり、さらに各節に分かれています。それぞれがどのような部、章、節となっているかは、昨日アップした目次を見て下さい。

叙述は「です、ます」調とし、できるだけ素朴で率直な疑問に答えるように努めました。特に工夫したのは章です。終章を含めて 26 に分かれているのは、各章について一時間講義すれば一年間で終わるようにしたからです。

分量も、各章は基本的に見開き 4 ページに収められており、例外は最近の事例を加筆した 14 章と 15 章、それに終章です。各章の記述を、定められた字数にピタリと収めるように書くのは一苦勞でした。

第 2 に、右側のページの下に、図表や写真などの資料やコラムを入れたことです。本文の記述だけでは理解しにくいこと、本文の理解を助けるうえで役に立つことを、資料や記述によって補う工夫をしたというわけです。

資料は、第 1 部で 12 点、第 2 部で 17 点、第 3 部で 36 点、合計 65 点掲載され、コラムは全部で 11 本になります。参考までに、コラムの表題を以下に掲げておきましょう。

ベトナム戦争とイラク戦争

ポル・ポト派による虐殺—キリング・フィールドとツールスレン博物館

ザクセンハウゼン強制収容所とポツダム

政治に関する金言

さまざまな日本文化論

朝鮮戦争に「参戦」した日本人

日米同盟の闇—「密約」問題と沖縄の犯罪被害

「皇民党事件」の深層—総理誕生の裏で暗躍した右翼と暴力団

何が、どう変わったのか—利益政治から理念政治への転換

「活憲」による非軍事的な人的国際貢献のビジョン

カーネギーは言った、「金持ちのまま死ぬのは恥である」と。

第 3 に、本文脇の欄外で、本文に出てくるキーワードの解説を行っていることです。どのような用語を解説しているか一覧表を出せばよいのですが、全部で 409 にも上りますので、ここですべてを紹介することは不可能です。

できるだけ多くの用語について、できるだけ簡単に説明しようとしたのですが、これは言うに易く行うに難しというべき作業でした。結果的に、本書は政治に関する事典としても利用可能になったと思います。

18歳から考える日本の政治〔第2版〕

キーワード解説の一例として、終章で取り上げられている用語を以下に紹介しておきましょう。

政・官・財（業）癒着／構造改革／事業仕分け／沖縄普天間基地撤去問題／TPP／戦略的な政策形成機関／サービス残業／国民投票法／96条先行改憲論／国家安全保障会議設置法／特定秘密保護法／新防衛計画の大綱・新中期防衛力整備計画／武器輸出三原則の見直し／靖国神社／シリア紛争への軍事介入／集団的自衛権の行使容認／在日特権を許さない市民の会（在特会）／安保法制懇と国民安保法制懇／福井地裁の画期的な判決／就活／新しい公共／社会運動的ユニオニズム／官邸前集会

本書『18歳から考える日本の政治』（法律文化社）の購入を希望される方は、以下のような方法で注文していただければ幸いです。

http://hou-bun.com/03contact/03_03_01.html